



※ JIS B8628-2017



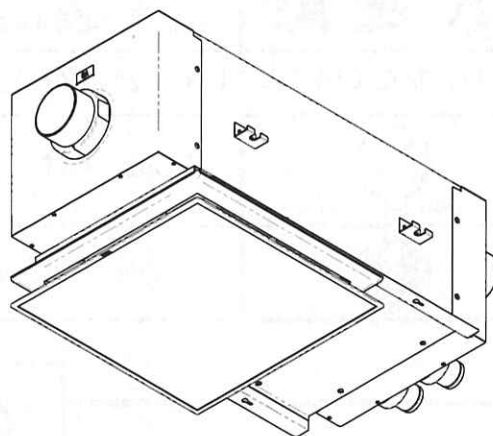
# 全熱交換型 スーパーエコ換気ユニット

## 施工説明書

工事店さま用

本体グリル天井設置タイプ  
型式

### SE100RD-4B



- 本換気ユニットは住宅専用です。それ以外には使用しないでください。故障の原因となります。
- 本換気ユニットは24時間換気システムとしてご使用ください。
- 取付けの前に本説明書の「安全上のご注意」をよくお読みの上、確実に施工してください。
- お使いになるお客様や、他の人に対する危害、財産への損害を未然に防止するために本説明書の内容をよく読んで、正しく施工してください。
- 本説明書は、施工業者がいつでも見る事ができるように保管してください。


### ■ もくじ


1. 安全上のご注意	2~4
安全にご使用いただくために必ずお守りください	
2. 外形寸法と各部の名称	4
3. システム設置例	5
4. 取付け方法	
■換気ユニットの取付け	6
■天吊りボルトで吊り下げる場合	6~7
■野縁に固定する場合	7~8
■断熱ダクトの取付け	8
■非断熱ダクトの取付け	9
■コントローラーの結線と取付け	10
■電源の接続	11
■本体グリルの取付け	12
■屋外フードの取付け例	13
■補助排気グリルの取付け例 (オプション)	14
5. 試運転と風量調整	15
6. 仕様	(裏表紙)
● 安全表示について	(裏表紙)

# 1. 安全上のご注意


● 安全にご使用いただくために、次のことがらを必ずお守りください。


表示されている内容に反して間違った使い方をしたときに生じる危害や損害について、次の表示で区分して説明しています。

 <b>警告</b>	誤った使い方をすると死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容が示されています。
---	--


 <b>注意</b>	誤った使い方をすると人が傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容が示されています。
---	--


お守りいただく内容について、次の図記号で区分して説明しています。


	この図記号は、してはいけない「禁止」内容を表します。
---	----------------------------


	この図記号は、必ず行う「強制」内容を表します。
---	-------------------------


## 警告


	分解や改造は絶対に行わないでください。 感電、火災の原因となるおそれがあります。
--	---


	浴室換気には絶対に使用しないでください。 感電、火災、漏電の原因となるおそれがあります。
--	---


	本体の取付け方法は、施工説明書に示す、水平取付け以外を行わないでください。 感電、火災、水漏れの原因となるおそれがあります。
---	---


	電源は、AC100V以外では絶対に使用しないでください。 感電、火災の原因となるおそれがあります。
---	--


	浴室など湿気の多い場所には、据付をしないでください。 感電、火災、漏電の原因となるおそれがあります。
---	---


	電気工事の際は、必ず分電盤のブレーカーを「切」にしてください。 感電、けが、破損の原因となるおそれがあります。
---	--


	本機の施工は、この施工説明書に従って正しく、確実に行ってください。 工事に不備があると、感電、火災の原因となります。
---	---


	本機の施工は、お買い上げの販売店または専門の工事店に依頼してください。 工事に不備があると、感電、火災の原因となります。
---	---

	据付は、本機の質量に十分耐えるところに施工説明書に従って確実に行ってください。 強度不足、取付け不完全の場合、感電、火災、落下などによりけがのおそれがあります。
---	---

	アース工事を行ってください。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。 感電の原因となるおそれがあります。
---	---

	電気工事は、電気設備技術基準、内線規程など関連する法令・規程に従って必ず電気工事士の資格を有する者が適切な方法で行ってください。 無資格者の工事や、電気工事士による不適切な工事は火災や漏電を引き起こすおそれがあるほか、関係法令により処罰などされることがあります。
---	--

	設置方向は、フィルターの取外し面が下になるように設置してください。 感電、火災、漏電の原因となるおそれがあります。
---	--

	メタルラス、ワイヤラス、または金属板張りの木造営物に金属製ダクトを貫通する場合、メタルラス、ワイヤラス、金属板と接触しないように取付けてください。 漏電した場合、感電・火災・けがの原因となります。
---	---

## ⚠ 注意



高温となる場所や、直接炎が当たったり、油煙の多い場所には取付けないでください。発熱、火災の原因となるおそれがあります。



本体のダクト接続部に手を入れないでください。回転物で手がけがする原因となるおそれがあります。



下記条件以外では使用できません。製品本体に結露水が付着し、滴下することがあります。  
外気温度：-5℃～+40℃  
本体周囲温湿度：0℃～+40℃、80%RH 以下 かつ、  
冬季暖房条件時露点温度9.3℃(20℃、50%RH 相当)となる絶対湿度以下



寒冷地（次世代省エネ基準Ⅰ地区）に取付けないでください。  
換気ユニットから水が滴下して、家財などを濡らす原因となります。



外気が低温になる地域には取付けないでください。  
-5℃を下まわる外気が6時間以上継続すると、換気ユニットから水が滴下して、家財などを濡らす原因となります。



傾斜のある天井面には取付けないでください。  
モーター故障や異音発生などの原因となります。



屋外側ダクトは断熱ダクトを使用してください。準寒冷地においては、室内側ダクト（SA）にも断熱ダクトを使用してください。  
結露により家財などを濡らすおそれがあります。



塩害の懸念される地域で使用した場合は、使用材料の劣化により部品交換が早まる可能性があります。使用地域をよくご確認ください。



電源および接続電線は指定のものを使用して確実に接続してください。  
発火、発煙、火災の原因となるおそれがあります。



本体から屋外端末部材の間に使用するダクトに、アルミフレキシブルダクト等の断熱性のないものを使用すると、熱交換性能が低下する可能性があります。ダクトをよくご確認ください。



端子台カバーは操作後は必ず閉めてください。  
漏電、火災などの原因となるおそれがあります。



専用ブレーカーを取付けてください。据付の場所によっては漏電ブレーカーの取付けが必要です。  
感電の原因となるおそれがあります。



施工の際、本機を落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。  
破損により感電、機能低下の原因となるおそれがあります。



本体の取付け場所は、必ず断熱層、気密層の内側としてください。  
断熱層の外側に設置すると、本体内部での結露の発生、感電、結露水滴下の原因となります。



施工後、引渡し時に一度フィルターを清掃してください。  
工事中にフィルターが目詰まりして、機能低下のおそれがあります。



部品などの取付けは、確実に行ってください。  
落下などによりけがをする原因となるおそれがあります。



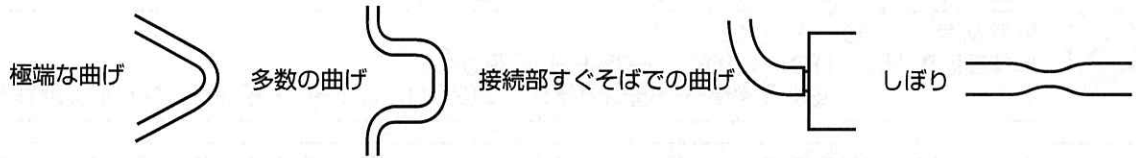
風量調整は必ず行い、法律の規定換気回数以上になるように調整してください。  
室内環境の悪化や、換気ユニットやダクト内にカビの発生を招く原因となるおそれがあります。



スリーブ管取付けを行う際、必ず屋外に向けて下り勾配をとってください。  
勾配をとらないと、雨水が室内側に流れます。

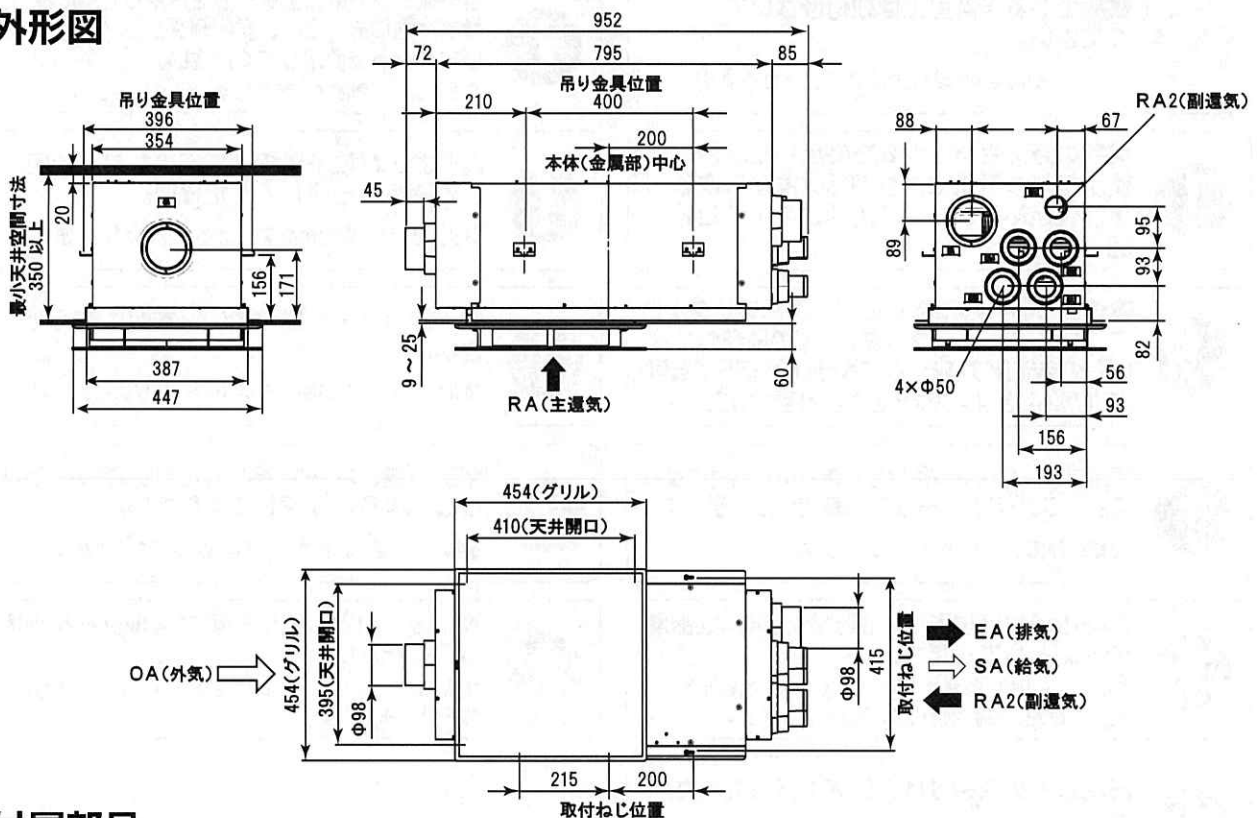
# お願い

- 天井材は、共鳴しにくい材質をご使用ください。（騒音クレームの原因となる恐れがあります。）
- 本体は、寝室の近くに設置しないでください。（騒音クレームの原因となる恐れがあります。）
- 接続するダクトは、次のような工事はしないでください。（風量低下や異常音発生の原因となる恐れがあります。）



## 2. 外形寸法と各部の名称

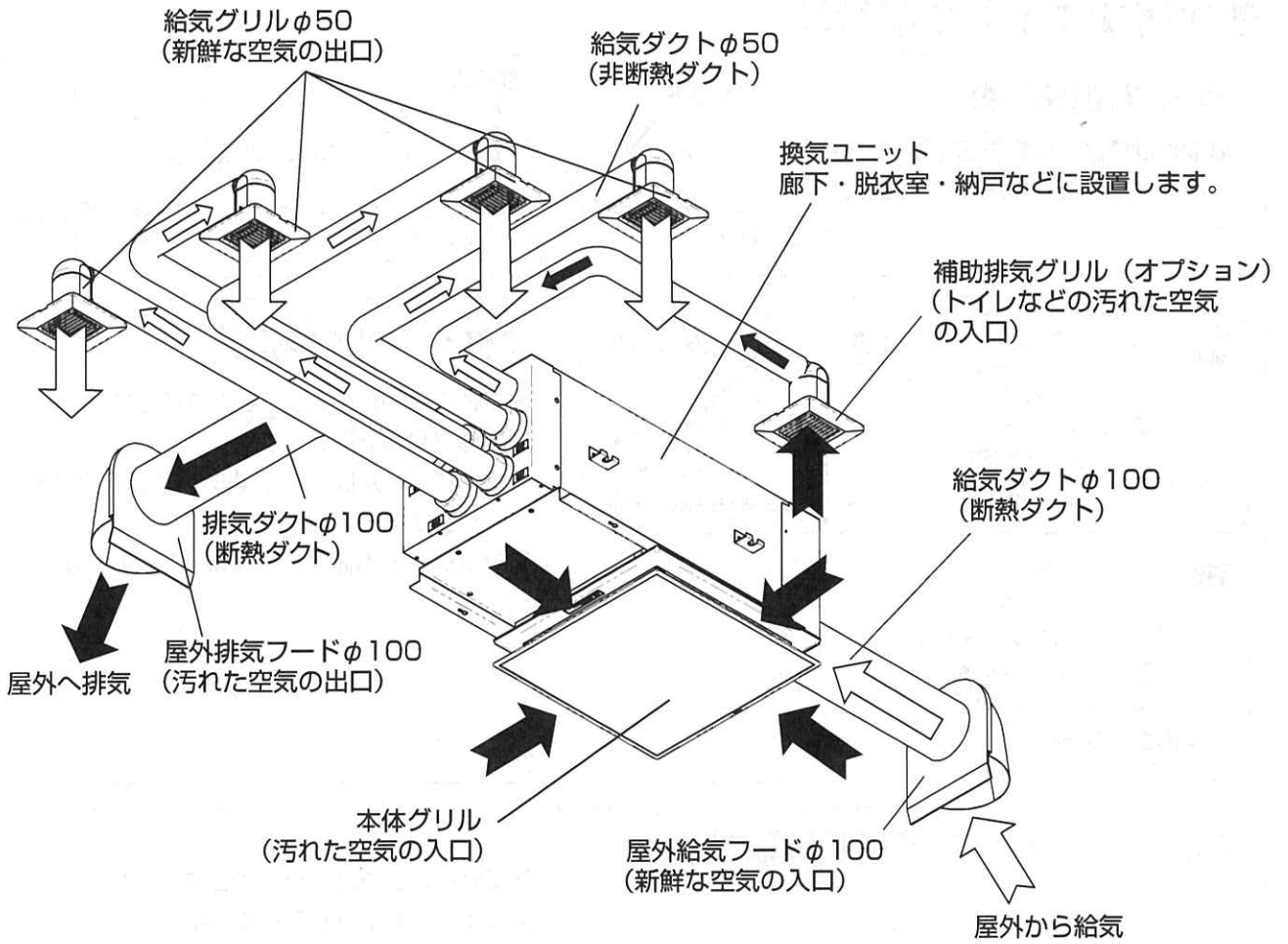
### 外形図



### 付属部品

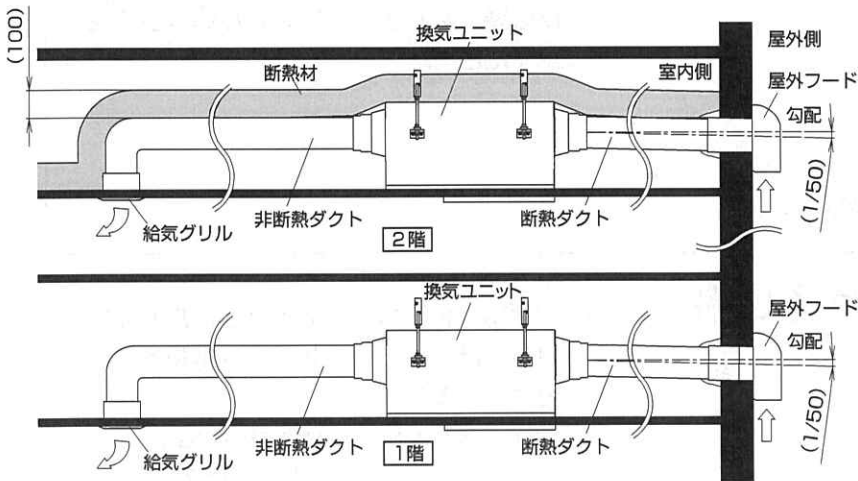
コントローラー 	コントローラー中継コード10m 	風量設定位置表示シール  L形レンチ(呼び2) 	ダクトキャップ 2個 
本体取付け木ねじ φ4×30 6本 	スライド枠固定ねじ M4×30 4本 	取扱説明書  ※保証書付	施工説明書(本書) 

# 3. システム設置例



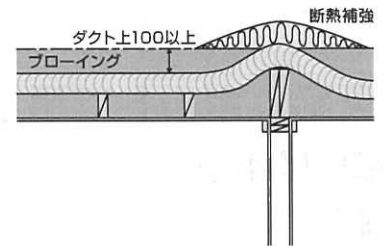
## 断面図

※注意：本体、資材は必ず断熱層の内側に設置します。



### 天井断熱の場合

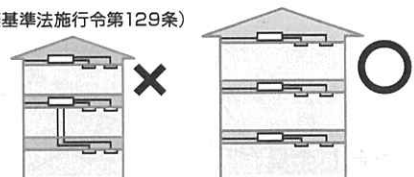
梁などでダクトが断熱層より露出または確実に断熱層内に施工できない場合は、その部分のダクトに対し断熱補強をしてください。



3階建て以上の住宅に使用するダクトは不燃材を使用しなければならない。(建築基準法施行令第129条)

●上記の建築物でも、下記2つの要件を満たせば不燃材料でなくてもかまわないことになりました。  
(→可燃性の材料でもかまわない) 集合住宅の場合も同様です。(平成12年建設省告示第1412号参照)

- 要件1) 各フロアー毎にダクトが完結していること。(階をまたがらない)
- 要件2) 延焼の恐れのある外壁に給排気口を設置する場合は、FD付屋外フードを使用します。

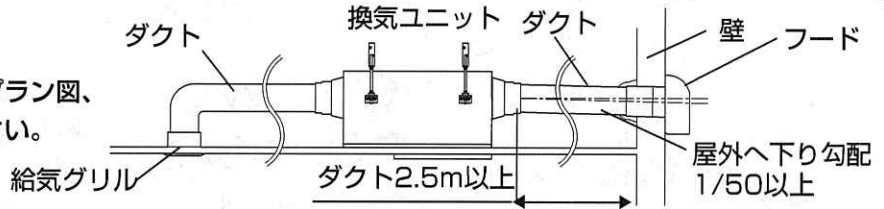


# 4. 取付け方法

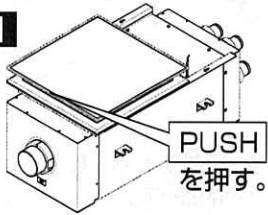
## ■換気ユニットの取付け

### 取付け位置決め

- 取付け位置・壁穴位置を換気プラン図、設計図などを元に決めてください。

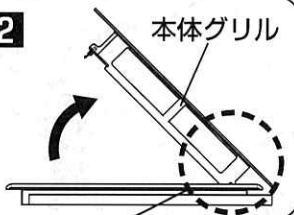


1



PUSH  
を押す。

2

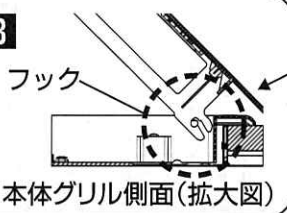


本体グリル

### 本体グリルの開閉

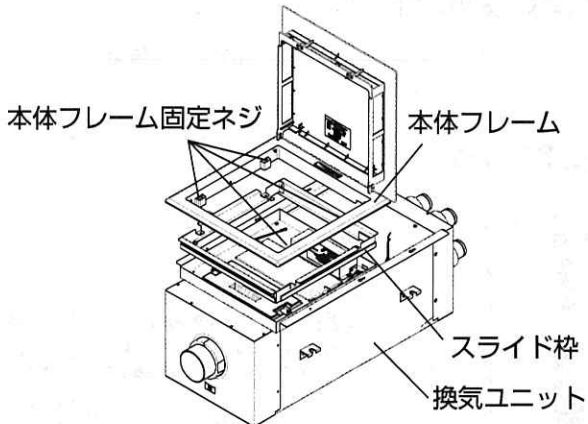
1. 本体グリルの **PUSH** を指で押します。
2. 本体グリルを開きます。  
※本体グリルは 45 度開いたところで止まります。
3. フックから本体グリルを外してください。

3



フック  
本体グリル側面(拡大図)

### 本体フレーム・スライド枠取外し



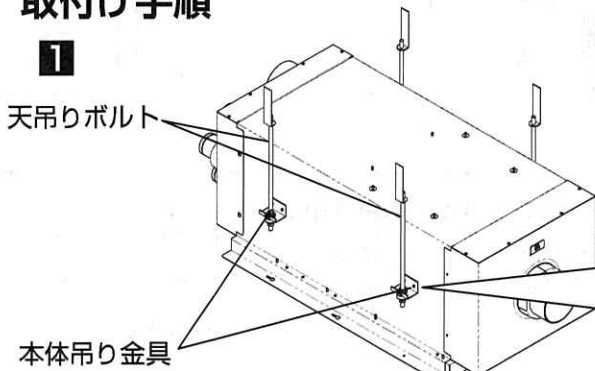
施工時は、換気ユニットから本体フレームとスライド枠を取外してください。

- 本体フレーム固定ネジM4×8L (4本) を外し、本体フレーム、スライド枠と一緒に保管してください。取付けのとき再度必要になります。紛失しないようご注意ください。

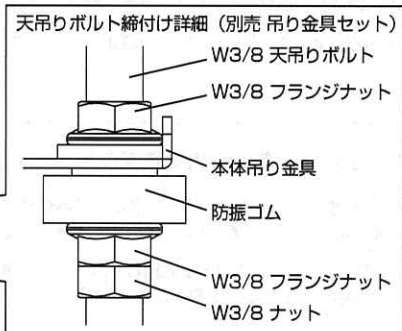
## ■天吊りボルトで吊り下げる場合

### 取付け手順

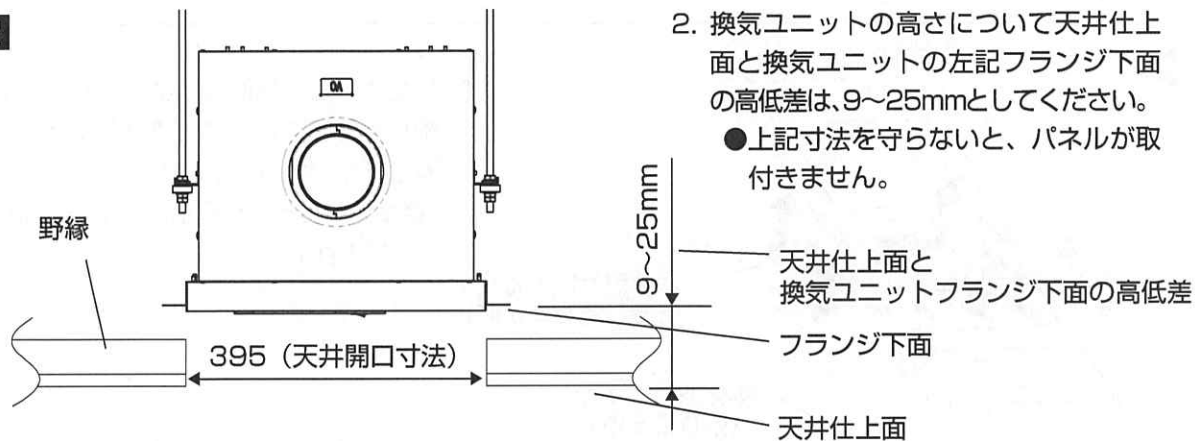
1



1. 本体吊り金具の位置に天吊りボルトを設置し、換気ユニットを天吊りボルトに取付けてください。



2



2. 換気ユニットの高さについて天井仕上面と換気ユニットの左記フランジ下面の高低差は、9~25mmとしてください。  
●上記寸法を守らないと、パネルが取付きません。

## ■野縁に固定する場合

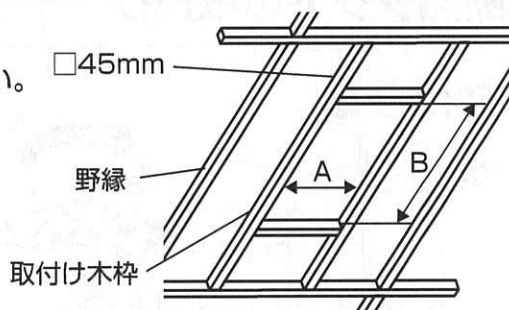
### ■取付け木枠の組立寸法

反響、振動が起りやすい場所への設置は避けてください。  
取付け木枠を作り、野縁に取付けます。

A寸法	390mm
B寸法	1100mm

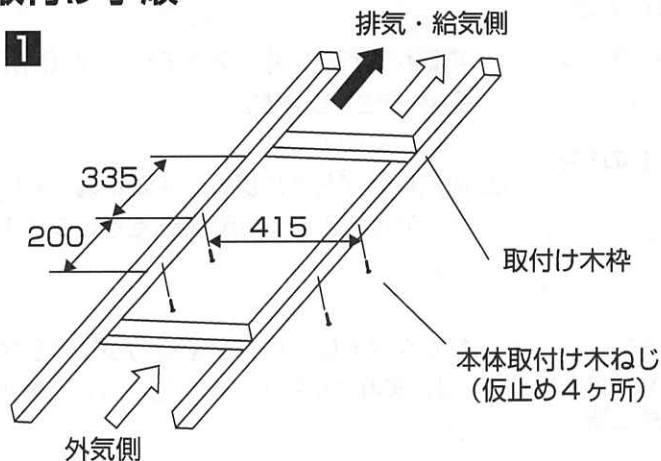
※内寸法

●本体質量は約11kgです。  
必要に応じて補強してください。



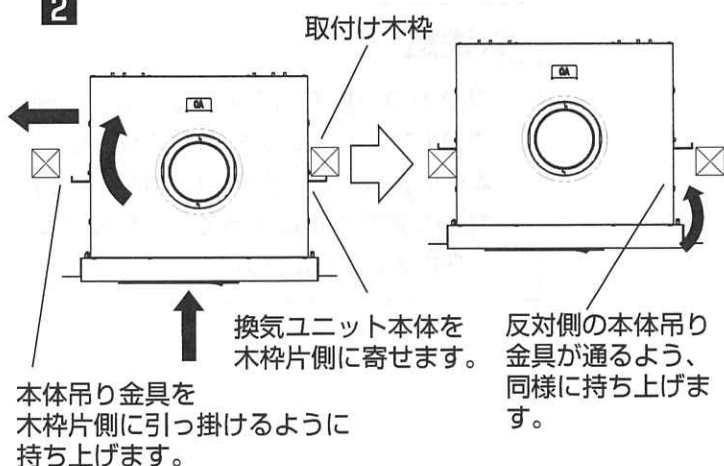
## 取付け手順

1

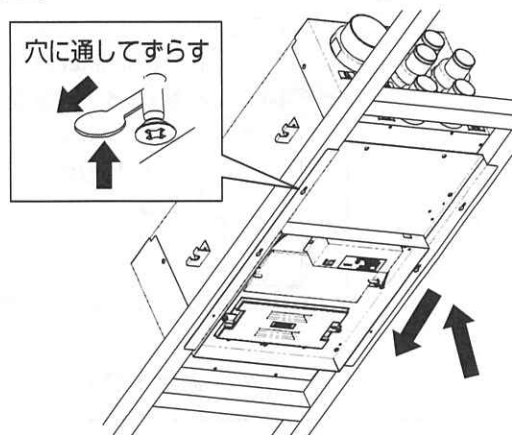


1. 本体を取付ける位置に、本体取付け木ねじ (付属品) を4ヶ所、仮止めしてください。
2. 本体を木枠内側に通すときは、本体吊り金具が木枠に引っ掛からない様に、片側ずつ通してください。
3. 本体のねじ穴 4ヶ所を通して木枠に仮止めしてください。  
●仮止め状態で放置しないでください。  
本体が落下すると、けがや本体損傷の原因となります。

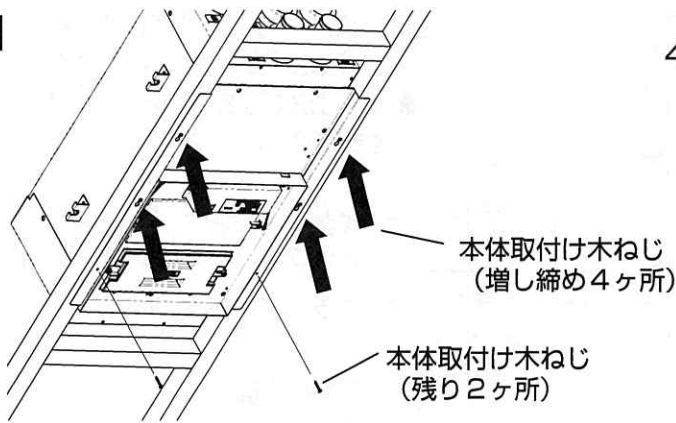
2



3



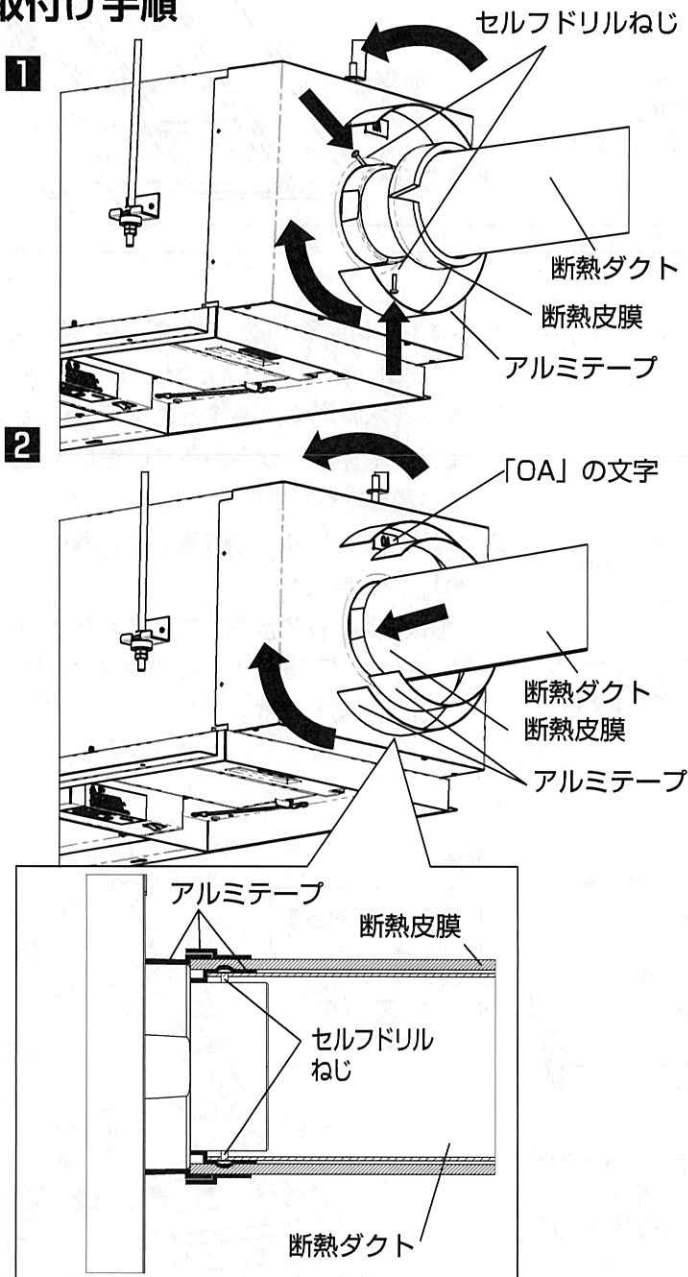
4



4. 仮止めした本体取付木ねじ4ヶ所を増し締めして固定します。残り2ヶ所の本体ねじ穴も、本体取付木ねじで固定します。  
●本体がしっかり固定されたか確認してください。

## 断熱ダクトの取付け

### 取付け手順



1. 断熱ダクトを適切な長さに切断し、断熱皮膜をむきます。

換気ユニットのOA・EAの本体接続口に確実に差込み、セルフドリルねじ(2~3本市販品)で固定します。

空気が漏れない様、アルミテープ(別売品)を巻きつけます。

2. 断熱皮膜をもとに戻し、空気が漏れない様、アルミテープ(別売品)を巻きつけます。

3. 断熱ダクトは本体に無理な力が掛からない様、天井内に番線などで固定してください。

### ⚠注意

- ・ダクトの接続方向に十分注意して、間違いのないように接続してください。
- ・本体に表示してあるOA(外気)、EA(排気)の文字にしたがって、正しくダクトを接続してください。

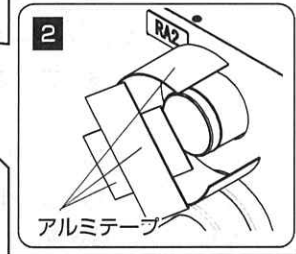
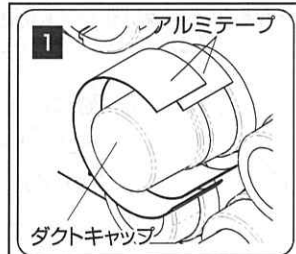
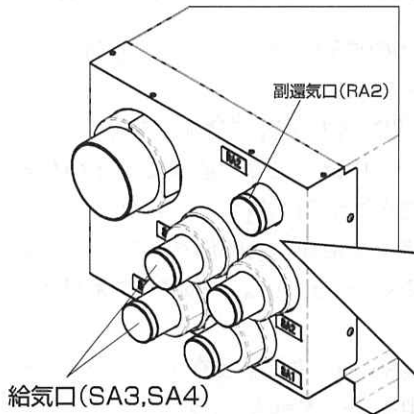


# ■非断熱ダクトの取付け (非断熱ダクトは、低温になるEA・OAダクトには使用できません)

**お願い** アルミテープの貼り付け方は、下図を参考にしてください。

## 接続口の閉塞 (3、4口目の給気口及び、副還気口を使用しない場合)

**1**



3、4口目の給気口及び、副還気口は、初期状態では開口されています。使用しない場合、以下の手順で閉塞してください。

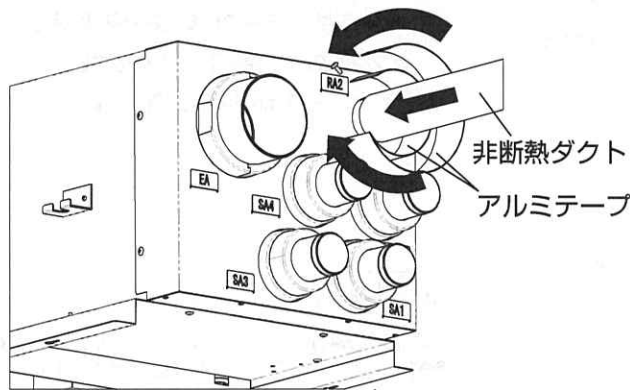
1. ダクトキャップ (付属品) を給気口 (SA3,SA4) に差込み、接続部を空気が漏れないように、アルミテープ (別売り品) を巻き付け、固定します。
2. 副還気口 (RA2) は、空気が漏れないように、直接アルミテープ (別売り品) を貼り付けて閉塞してください。

● 給気口 (SA3、SA4) と副還気口 (RA2) を間違えないように注意してください。

## 取付け手順

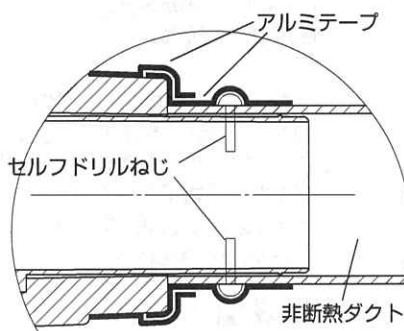
**1**

**2**

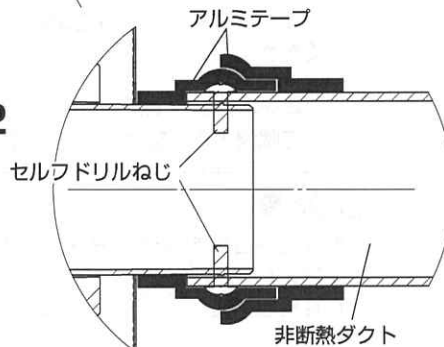


1. 非断熱ダクトを換気ユニット本体の RA 接続口に確実に差込み、セルフドリルネジ (2～3 本市販品) で固定します。
2. 空気が漏れないよう、アルミテープ (別売り品) を巻き付けます。
3. ダクトは本体に無理な力が掛からないよう天井内に番線などで固定してください。

**SA**



**RA2**



### ⚠️ 注意

- ・ダクトの接続方向に十分注意して、間違いのないように接続してください。
- ・本体に表示してある SA (給気)、RA (還気) の文字にしたがって、正しくダクトを接続してください。

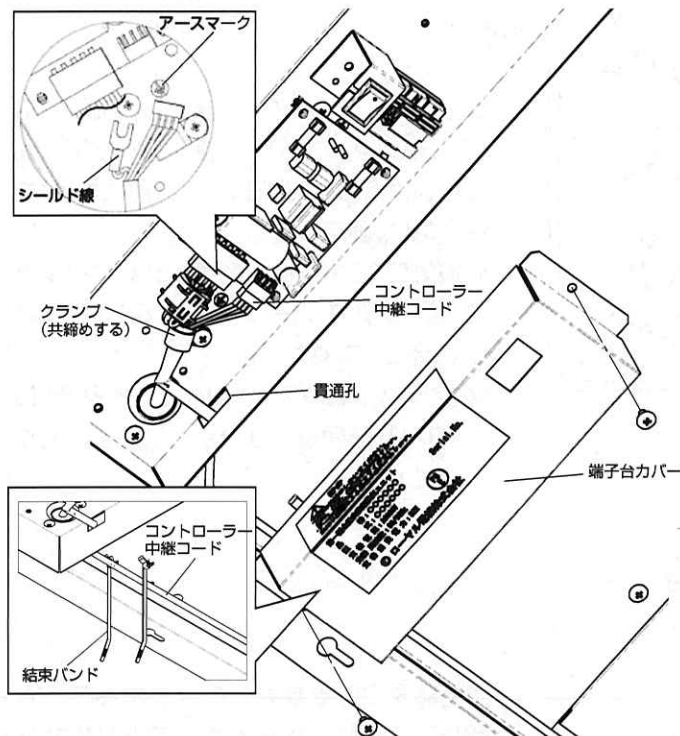
## ■コントローラーの結線と取付け

●分電盤のブレーカー及び本体スイッチが、必ず「切」になっていることを確認してから作業してください。

### お願い

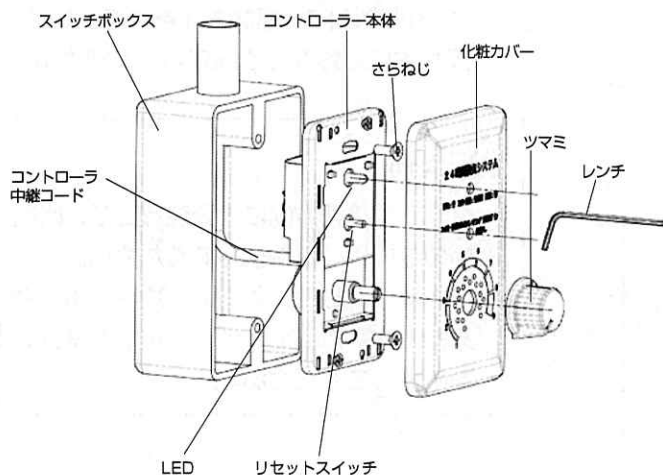
- ・コントローラー中継コード、アース線、コネクタは接続部に力がかからないようにたるみをもたせて接続してください。
- ・結線後、接続がゆるくないか、ガタつきがないか、しっかり奥まで差込まれているかを、十分に確認してください。

### 本体への結線



1. 換気ユニットの端子台カバーのねじ2本を外し、端子台カバーを取外します。  
このねじは紛失しないようにご注意ください。
2. コントローラー中継コードを、換気ユニットの左図貫通孔を通るように取りまわしてください。
3. コントローラー中継コードから出ているシールド線を、アースマーク近くのねじをゆるめて取付けます。  
ねじを増し締め後、制御基板のコネクタにコントローラー中継コードを差込みます。
4. 接続後、クランプ及び結束バンドで固定してください。  
●クランプは、モータ中継コードを固定しているクランプを外し、共締めしてください。
5. 端子台カバーを元の位置に取付けます。

### コントローラーの取付け



#### 取付け場所

- 日常生活のなかで、操作しやすく、邪魔にならない場所を選び、次のようなところは避けてください。
- ・ガスレンジ、コンロなどの熱焼器具の近くで、温度が上がるところ
- ・水しぶきや水滴のかかるところ
- ・直射日光の当たるところ
- ・屋外

1. コントローラー中継コードのコネクタを、コントローラー本体のコネクタに差込みます。
2. コントローラー本体をスイッチボックスに合わせ、皿ねじ（市販品）にて固定します。
3. 化粧カバーの裏側にあるツメ（4か所）をコントローラー本体にはめ込み、固定します。

#### ⚠注意

- ・リセットスイッチ及びLEDの挿入に十分注意してください。

4. ツマミをボリューム軸にかぶせ、付属のL形レンチにて隙間ができないようにツマミを取付けます。

#### ⚠注意

- ・ボリューム軸を半時計方向に止まるまで回し、ツマミの突起を化粧カバーの「1」の位置に合わせ、ツマミのイモねじを締めつけます。

## ■電源の接続

### 警告



電源は、AC100V以外では絶対に使用しないでください。  
感電や火災の原因となるおそれがあります。



電気工事は、電気設備技術基準、内線規程など関連する法令・規程に従って必ず電気工事士の資格を有する者が適切な方法で行ってください。

無資格者の工事や、電気工事士による不適切な工事は、火災や漏電を引き起こすおそれがあるほか、関係法令により処罰などされることがあります。

### 注意

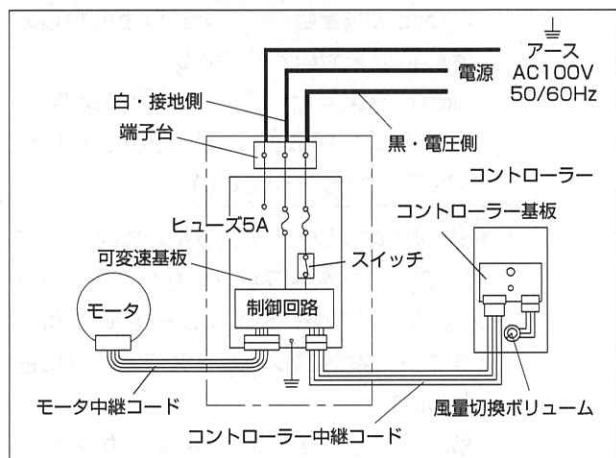


電源および接続電線は、指定のものを使用して確実に接続してください。  
発火、発煙、火災の原因となるおそれがあります。

### 結線図

※太線部分を結線してください。

### 結線手順

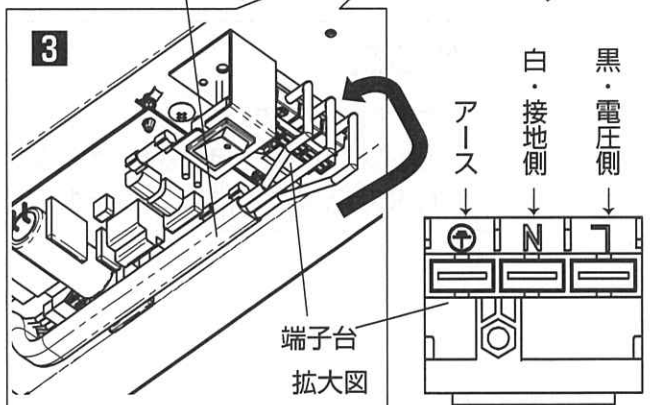
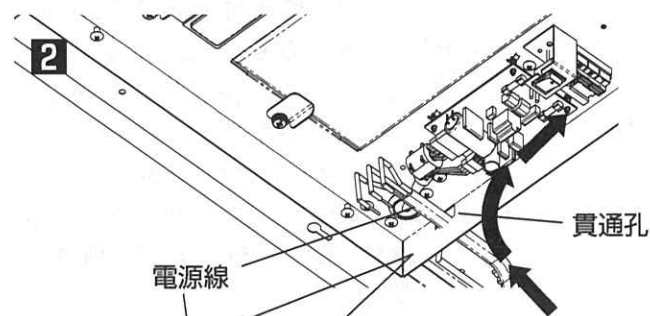


- 電源線、アース線は、VVFケーブルφ1.6または、φ2.0の単線を使用してください。
- ストリップゲージに合わせて先端12mmの皮むきをし、結線図を参照し連結端子台に確実に差込んでください。
- アース工事（D種接地工事）を行ってください。
- 結線後、軽く引っ張って抜けてこないことを確認してください。

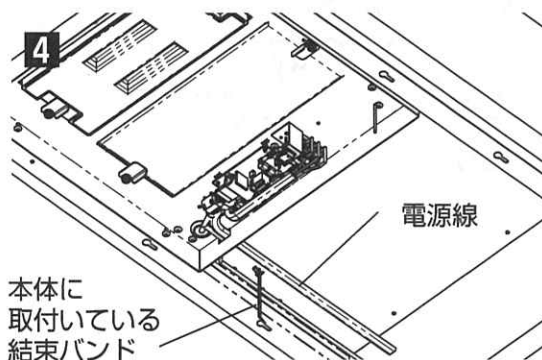
#### お願い

電源線、アース線は、接続部に力がかからないようにたるみをもたせて接続してください。

結線後、接続がゆるくないか、ガタつきがないか、しっかり奥まで差込まれているかを、十分に確認してください。

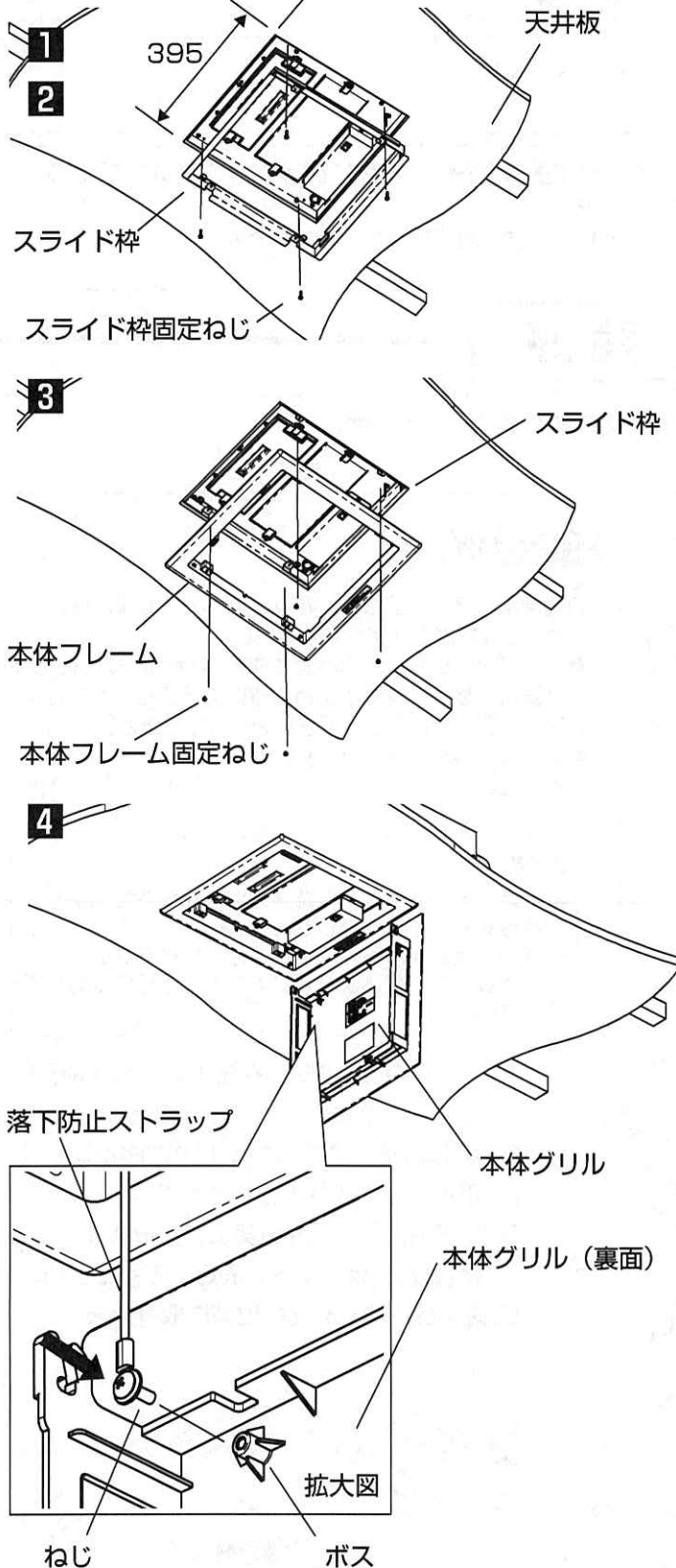


1. P.10 の 1. 同様、換気ユニットの端子台カバーのねじ2本を外してください。
2. 電源線を、換気ユニットの左図貫通孔を通るように取りまわしてください。
3. 端子台に電源線を確実に差込みます。
4. 接続後、結束バンドで固定してください。
5. 端子台カバーを元の位置に取付けます。



## ■本体グリルの取付け

### 取付け手順



1. 換気ユニットの開口面寸法に合わせて、天井材を開口 (395×410) し、天井板を貼り付けてください。

●天井板を2枚貼る場合は、1枚目の開口に合わせて2枚目を開口してください。

2. P.6の「本体フレーム・スライド枠取外し」で外しておいたスライド枠を、天井下面まで押しあげて、スライド枠固定ねじ(付属品・4本)で締めて、固定します。

●スライド枠が天井板に密着するまで締めてください。

### ⚠注意

- ・ねじの締め込み過ぎに注意してください。スライド枠と天井とのすき間がなくなった状態を目安に、それ以上のねじの締め込みをやめてください。
- ・締めすぎますと、スライド枠が変形し、本体グリルが取付かない恐れがありますので注意してください。

3. P.6の「本体フレーム・スライド枠取外し」で外しておいた本体フレームから、本体グリルを取外します。本体フレーム固定ねじ(4本)で、本体フレームをスライド枠に取付けます。

●本体フレームには取付向きがあります。逆方向の場合、取付けできません。

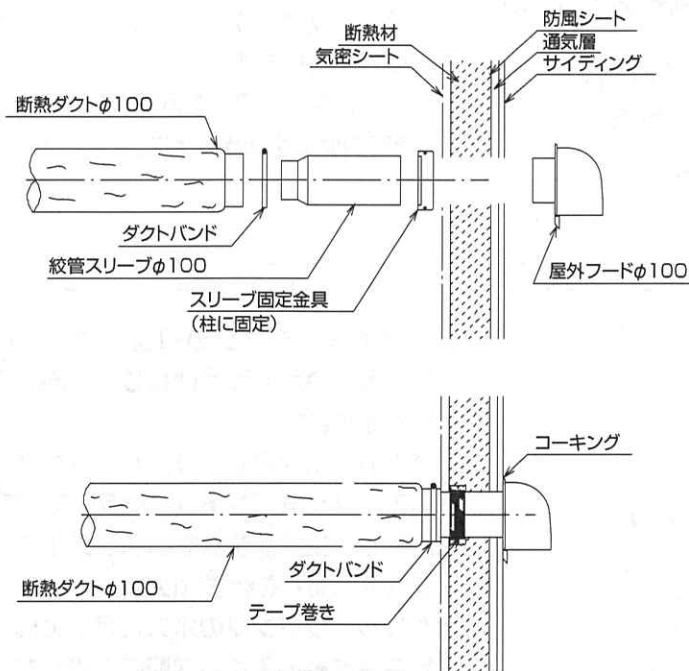
4. 換気ユニットの落下防止ストラップを、本体グリルの取付穴(2ヶ所)に取付け、本体フレームに元通りに取付けます。

●落下防止ストラップの先に、本体グリルへ取付けるねじが付いています。本体グリルのボス(2ヶ所)に取付けてください。

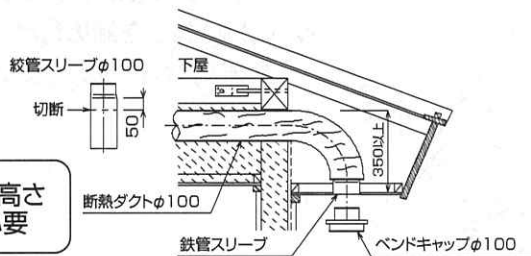
### ⚠注意

- ・ねじは必ず手締めで行ってください。電動ドライバーを使用すると、本体グリルのボスが破損する原因となります。

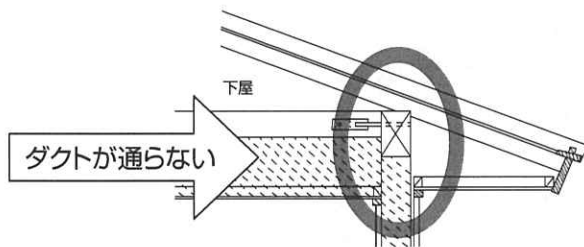
## ■屋外フードの取付け例



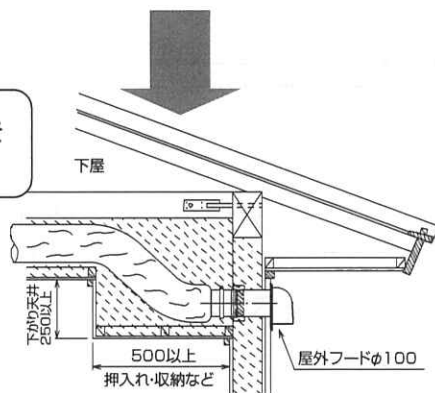
※外壁に向かって下がり勾配



軒天までの有効高さ  
350mm以上必要



押入れなどの天井を  
下げて外壁を貫通



### ●屋外フードφ100取付け方法

ダクト工事(サイディング張り・GW施工後)時、外壁面にφ110で穴をあけ、スリーブ固定金具を柱にねじ止めします。絞管スリーブを通して外部のコーキング処理および絞管スリーブと固定金具をテープで巻いて密着させます。絞管スリーブは、屋外へ1/50勾配としてください。断熱ダクトφ100に差込みダクトバンド(別売品)で固定します。アルミテープ(別売品)でダクト接続部の隙間を気密処理してください。外部にフードを取付けてコーキング材で処理します。

### ●ベンドキャップφ100

外壁に屋外フードが取付けられない場合の、軒天から排気する方法を右図に示します。

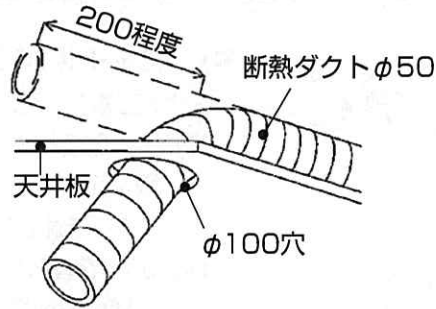
### ●軒天から排気できない場合

外壁に面している押入れなどの天井を下げ、ダクトを貫通させる方法を右図に示します。

- ※スリーブは、屋外へ1/50勾配としてください。
- ※スリーブは、断熱処理をして防露してください。
- ※スリーブは、断熱材の外にならないようご注意ください。
- ※気密層の連続処理をしてください。
- ※軒天から排気する場合や、天井を下げてダクトを貫通させる場合は、使用部材が変わりますので事前に打合せが必要になります。

## ■補助排気グリルの取付け例 (オプション)

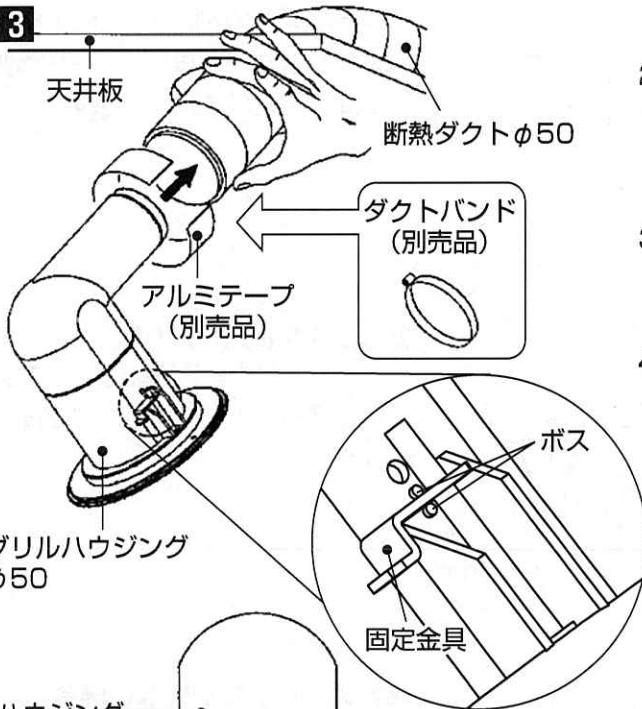
### 穴開口工事



1. ダクトφ50 をグリルの取付け位置まで配管し、取付け位置より200mm程度長くして切断します。
2. 取付け位置にφ100の穴開口を開け、ダクトを室内側に引き出します。

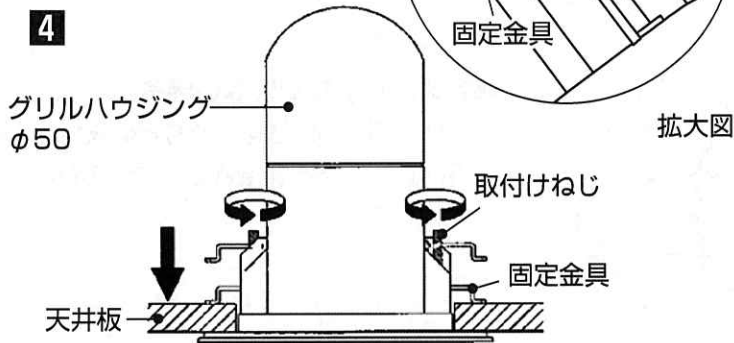
### φ50グリルの取付け方法

1~3

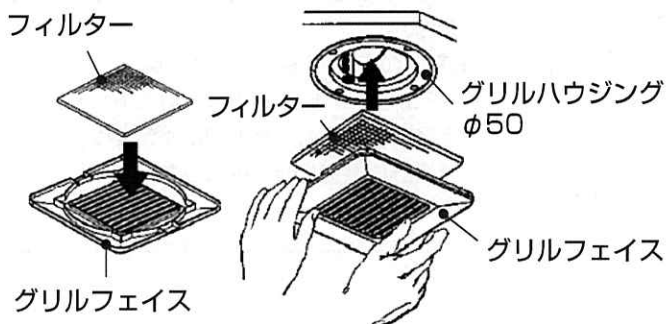


1. グリルハウジングの取付けねじをゆるめ、固定金具を取付けねじの上部に移動しておきます。
2. ダクトを引き出しグリルハウジングに差込み、ダクトバンド (別売品) で確実に固定し、空気が漏れないようアルミテープ (別売品) を巻き付けます。
3. グリルハウジングのボスとボスの間に固定金具を挟み入れ、穴開口に差込むときに引っ掛からないように挿入します。
4. 取付けねじを締め付け、グリルハウジングを天井板に固定します。

4



### グリルフェイスの取付け方法



グリルフェイスの内側にフィルターをのせ、グリルハウジングにグリルフェイスを取付けます。

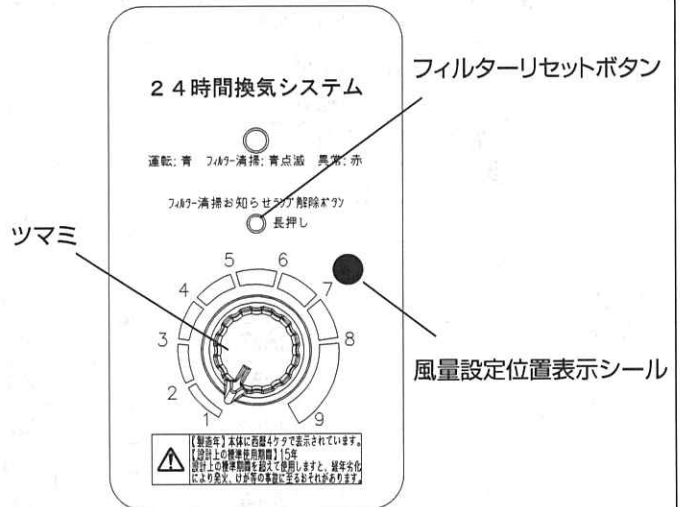
# 5. 試運転と風量調整

## ■試運転

- 取付け工事が完了したら、結線をもう一度確認し、必ず試運転を行ってください。
- 分電盤のブレーカー及び本体スイッチを「入」にし、本体が運転を開始することを確認してください。
- 運転確認後、本体の電源スイッチは必ず「入」にし、その後の操作は分電盤のブレーカーで行ってください。

## ■風量調整

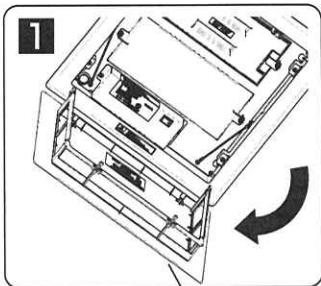
1. ツマミを左右に回転させ、つまみの位置が最小のときに「1」、最大のときに「9」に合うことを確認してください。
2. 付属の「風量設定位置表示シール」を、指定の箇所に貼付してください。
3. ツマミをシール貼付位置に合わせてください。
4. 分電盤のブレーカーを「切」にして、運転を停めてください。



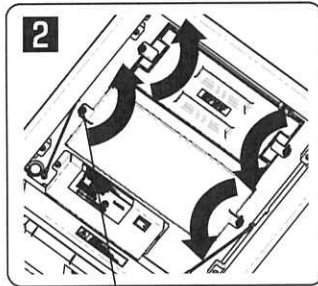
本製品は、1つのモーターで給気用・排気用の2つのファンを動かしています。急な排気などでつまみを動かした場合、給気量も同時に変化します。

## ■フィルター清掃

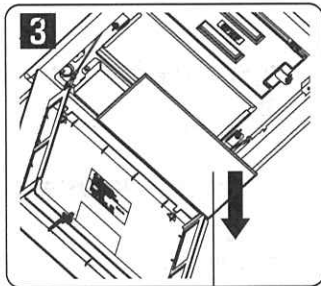
- 住宅の工事期間中、引渡しまでの間に本機が運転されている場合があります。このような場合は、工事現場の空気汚れのため、フィルターが目詰まりしている場合があります。お客様へ引き渡し前に、フィルターを清掃しコントローラーのフィルターリセットボタンを3秒以上長押ししてください。



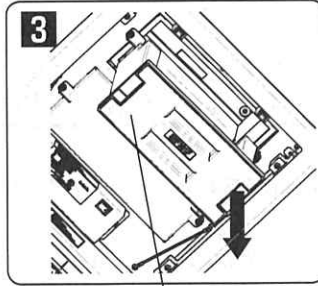
本体グリル



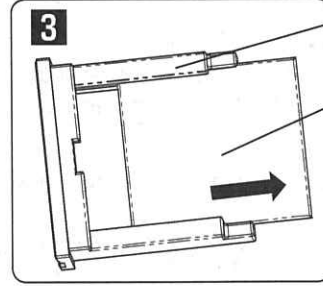
回転ストッパー



室内吸込み側フィルター



フィルターフレーム



フィルターフレーム

外気清浄フィルター

1. 本体グリルの「PUSH」を押して開けます。
2. 回転ストッパーを2か所ずつ回し、室内吸込み側フィルター、フィルターフレームを取外します。
3. フィルターフレームに収まっている外気清浄フィルターを取外します。
4. 各フィルターを掃除機などで清掃します。
5. 逆の手順で元に戻します。

# 6. 仕様

本体仕様	型式	SE100RD-4B										
	定格電圧	50/60Hz 単相100V										
	使用温度範囲	-5℃～+40℃										
	本体周囲温湿度及び室内環境	0℃～+40℃、RH80%以下かつ冬季暖房時露点温度9.3℃(20℃、RH50%相当)となる絶対湿度以下										
換気仕様	風量設定位置 ※1	—	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
	機外静圧 ※2,3	給気系統	Pa	2	8	22	41	56	76	98	130	153
		排気系統		1	3	9	16	23	33	46	60	76
	定格風量 ※2,3	給気	m3/h	15	29	50	68	79	92	104	120	130
		還気		16	25	44	59	71	86	101	115	129
	定格消費電力 ※2,3		W	2	2	3	6	9	14	19	27	34
	比消費電力 ※4		W/(m3/h)	0.11	0.05	0.07	0.09	0.11	0.15	0.19	0.22	0.26
	騒音 ※5		dB(A)	16	19	22	28	31	34	37	40	42
有効換気量率 ※2,3		%	89									
熱交換効率 ※2,3	温度	暖房時	%	98	94	90	87	85	83	81	80	80
		冷房時		89	86	82	79	77	74	71	70	68
	湿度	暖房時	%	89	83	76	70	68	65	61	60	60
		冷房時		80	76	70	66	64	62	59	58	57
	全熱 (エンタルピ)	暖房時	%	94	90	84	80	78	75	72	72	71
		冷房時		80	77	72	69	67	64	61	60	59
※1 風量調整位置に対する性能は、無段階調整のため目安とします。												
※2 当社が定める標準的な圧力損失時における値を示します。												
※3 第三者機関での試験データより算出した値を示します。												
※4 比消費電力は特性表の定格消費電力と給気定格風量から計算した参考値です。												
※5 騒音値は本体底面中央より1.5mでの値です。実際の据付状態では、反響などの影響で表示より高くなる場合があります。												
※ 数値は、ダクト種類や経路、本体位置、気象等諸条件により変化しますので目安としてください。												
※ 性能(試験方法)は JIS B 8628:2017 に基づきます。												

## ● 安全表示について

経年劣化により危害の発生が高まる恐れがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた内容を本体およびコントローラーに表示されています。(設計上の標準使用期間 15年)

お問い合わせは下記へ



**ロイヤル電機株式会社**  
ROYAL ELECTRIC CO., LTD.

東京本社 〒108-0074 東京都港区高輪2-16-37  
換気営業部 TEL.03-5424-1861 FAX.03-5424-1864

URL : <https://www.royal-elec.co.jp/>



仕様は、予告なく改訂する場合がございますのでご了承ください。

TKS-1197-2